
UCHIDA CSR 報告書 2024

Corporate Social Responsibility Report 2024



トップメッセージ

Top Message



温暖化対策と再資源化

「地球沸騰化」が話題になった昨年を更に上回る気温を記録したこの夏、気候変動の脅威を私たちは目の当たりにしました。能登地方では大地震の爪痕も深く残る中、大水害の被害も生じました。被災した方々の艱難辛苦を思うと、心が締め付けられます。心よりお見舞い申し上げます。

地球温暖化に起因するとされる自然災害はこれからも頻発すると予測されており、国を挙げて取り組むべき喫緊の課題の一つです。

このような社会的課題を背景に、温室効果ガス排出量を把握するための手法である「スコープ」に関する取り組み促進や法の整備など、静脈産業を取り巻く環境も大きく変化しつつあります。

法律関連では、2022年に施行されたプラスチック資源循環促進法、2024年5月に成立公布された再資源化事業等高度化法、将来立法化が予測されるリサイクル関連の促進法等、再資源化促進に向けた枠組みの整備が着々と行われています。廃棄物に関する事業を営んでいる私たち事業者は、これらの社会的要請に積極的に応える使命を負っているのです。

株式会社ウチダは循環型社会の構築に寄与し続けます

株式会社ウチダは、1985年の創業以来今日に至るまで、【棄てない・埋めない・燃やさない】をキーワードに、廃棄物の100%再資源化を目指して処理を行っています。

100%の再資源化への道のりは極めて困難なものではありますが。昨年度は前年度に比べて、約1%リサイクル率を上昇させることができました。小さな一歩ですが、小さな工夫を積み重ねて、少しでも近づくようあきらめずに進む、きっとこれが一番の近道なのではないかと考えています。

実際にこのような小さな努力と工夫の積み重ねが、例えば木くずの100%リサイクルから始まる理想的なリサイクルシステム（家畜の敷料⇒使用後の敷料の堆肥化⇒高原キャベツやコメの肥料⇒作物の生育⇒自然への還元）の構築を実現させた一番の要因になりました。そしてその継続がシステムの安定運用を支えているのです。

ウチダではこの経験をベースに、がれき類やプラスチック類のリサイクルにも積極的に取り組んでいます。塩化ビニール樹脂に関しては、専用の破砕機を自ら製造することでリサイクルしやすい粒度の実現と運用に取り組んできました。

小さなことをおろそかにせず、資源の循環利用と廃棄物の更なる適正処理を進め、SDGsに貢献する、ウチダはそんなことを考えています。

資源循環型社会への貢献こそが私たちの使命です

当社は廃棄物処理施設を工業専用地域に設け、建築基準法第51条、廃棄物処理法第15条に対応させるだけでなく、破砕機をはじめとするほとんどの処理施設を自社で開発・製作するとともに、施設の維持管理も自ら徹底して行うことと併せて、常に環境負荷の少ない高品質な再資源化製品を提供できる体制を実現いたしました。更に、コンプライアンス(法令順守、Compliance)、ESG(環境と社会、企業統治の実現、Environment, Social, Governance)に加え、SDGs (Sustainable Development Goals) の考え方を企業経営に取り込み、ISO14001認証に基づく環境管理や、労働安全衛生管理、定期的な社員教育、ホームページによる情報公開等を積極的に行うことを心がけています。

当社はこの仕組みをさらに向上させることで、排出事業者、地域の皆様、製品も数多くご愛用いただいている多くのユーザー様をはじめ、全てのステークホルダーの皆様から常に信頼され、愛される企業、そして社会貢献のできる企業を目指しています

株式会社ウチダ 代表取締役 会長

内田 一三

目次

Contents

会社概要	3
組織図	4
沿革	5
ハイライト	7
環境とのかかわり	1 1
地域・社会とのかかわり	2 1
お客様とのかかわり	2 2
社員とのつながり	2 3
SDG ₅ への取り組み	2 5
第三者意見	2 6



牛も馬も豚も喜ぶウチダのオガコ

会社概要

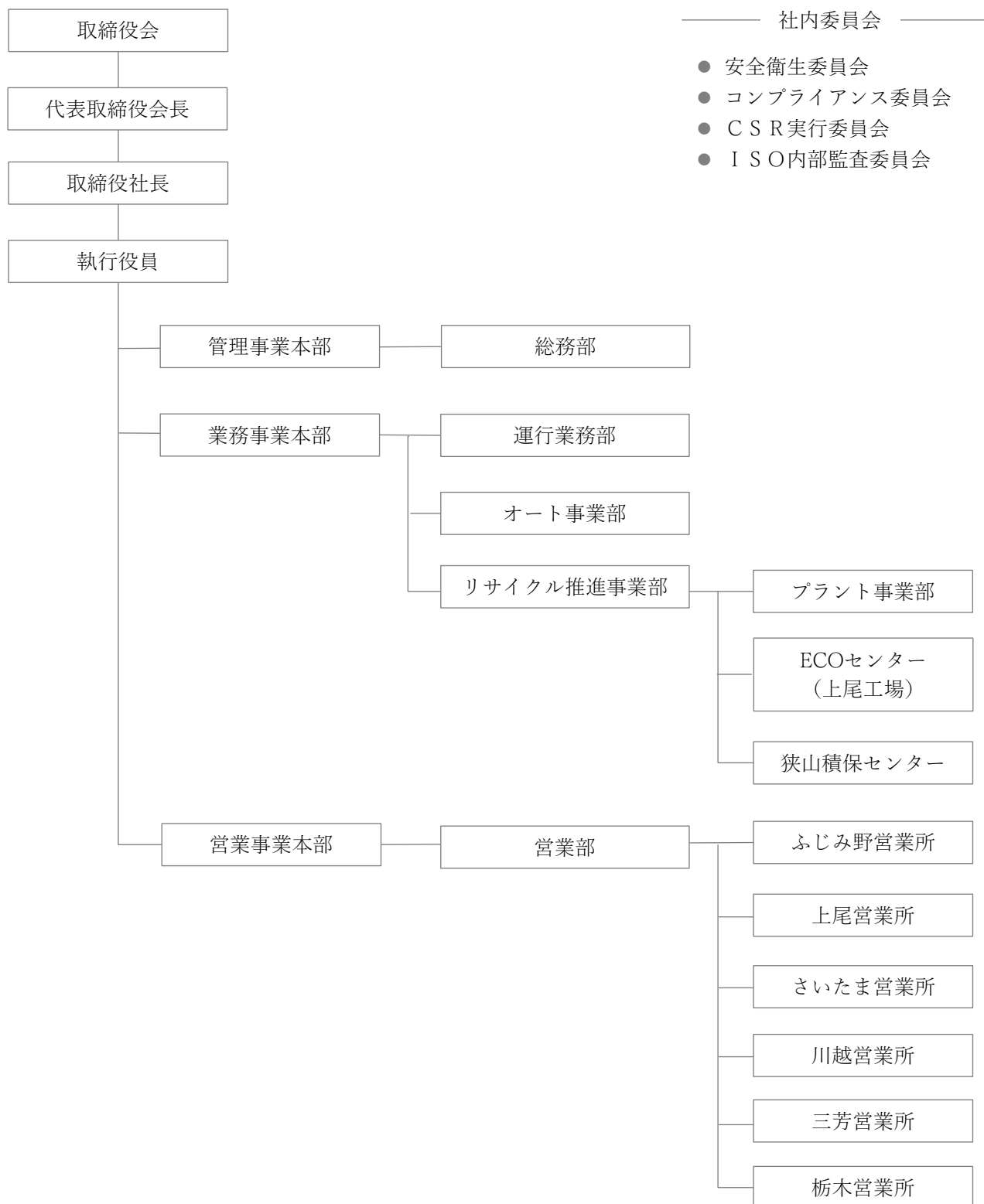
Company Guide

商 号	株式会社 ウチダ
資 本 金	5,000万円
会 社 設 立	1985年（昭和60年）2月20日
代 表 者 氏 名	代表取締役会長 内田 一二三
役 員	取締役社長 内田 千恵子 取締役 日野 弘幸 監査役 日野 佳乃与 執行役員 内田 朋美
本 社	〒356-0034 埼玉県ふじみ野市駒林18番地 TEL：049-263-9777
ふ じ み 野 営 業 所	〒356-0052 埼玉県ふじみ野市苗間1-6-10 TEL：049-293-1128 FAX：049-293-1126
さ い た ま 営 業 所	〒256-0052 埼玉県さいたま市桜区大字下大久保1219-1 メゾンノーブル102
川 越 営 業 所	〒350-1131 埼玉県川越市岸町二丁目18番4号
三 芳 営 業 所	〒354-0043 埼玉県入間郡三芳町竹間沢450-17-101
栃 木 営 業 所	〒329-3437 栃木県那須郡那須町大字簗沢527-2
狭山積保センター	〒350-1313 埼玉県狭山市上赤坂字妻恋ヶ原589番地1他 塩化ビニル管・継手管協会指定受入拠点
上 尾 工 場	〒362-0066 埼玉県上尾市領家字中井1119-1 （上尾領家工業団地内） TEL：048-782-0201（代） FAX：048-782-0204 塩化ビニル管・継手管協会指定受入拠点 塩ビ管・継手リサイクル契約 中間処理会社
事 業 内 容	産業廃棄物収集運搬業 営業地域：関東一円 特別管理産業廃棄物収集運搬業 産業廃棄物処分業 産業廃棄物再生事業 一般廃棄物収集運搬業 一般建設業 埼玉県知事 許可（般-2）第51123号 土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業 舗装工事業、しゅんせつ工事業、水道施設工事業 解体工事業 リサイクル機器設計・製造・販売業 中古自動車販売業
従 業 員	46名（2024年9月現在）
主 要 取 引 銀 行	埼玉縣信用金庫（上福岡支店）・三菱UFJ銀行（新座志木支店） 武蔵野銀行（上尾支店）
加 盟 団 体	一般社団法人埼玉県環境産業振興協会 一般社団法人東京都産業資源循環協会 公益社団法人栃木県産業資源循環協会 一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会 塩化ビニル管・継手協会（賛助会員）



組織図

Organization system



沿革

History

- 1985.02 有限会社内田商事 設立（埼玉県上福岡市）
- 1987.10 埼玉県を中心に産業廃棄物収集運搬事業を開始
順次営業エリア拡大
営業部設置（埼玉県狭山市）
- 1992.06 埼玉県富士見市に営業本部を設置
（みずほ台営業所）
狭山営業所は狭山積保センターに
- 1994.09 埼玉県知事より建設業許可取得
- 1995.05 「株式会社ウチダ」に社名変更
資本金を5000万円に増額
- 1997.05 産業廃棄物中間処分業を開始（埼玉県許可取得）
- 1998.06 廃棄物再生事業者登録取得（埼玉県）
- 1998.12 計量証明事業登録取得（埼玉県）
- 2000.04 廃棄物破碎処理機の自社開発に着手
- 2004.01 ISO14001認証取得 以降、現在まで再登録
- 2004.01 特別管理産業廃棄物収集運搬業を開始
- 2004.06 電子マニフェストシステム加入
- 2005.01 一般貨物自動車運送事業許可取得
- 2006.11 更生保護事業への貢献がみとめられ、
さいたま保護観察所長より感謝状
- 2006.01 緑のトラスト運動協力企業として
- 2007.03 埼玉県知事より感謝状
- 2007.03 上尾工場の保管施設を追加
- 2007.11 狭山積保センターで石綿含有産業廃棄物の
積替え保管可能に
- 2008.12 上尾工場拡張
- 2010.02 東京都産廃エキスパート認定取得
（収集運搬業（積替え保管を除く））
以降、現在まで更新認定取得
- 2010.05 （社）埼玉県産業廃棄物協会より
「優良事業所表彰」を授与される
- 2011.04 塩化ビニル管・継手協会の契約中間処理工場に
指定される
（受入拠点：上尾工場・狭山積保センター）
- 2011 産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業 優良確認・
2012 優良認定を受ける（埼玉県他）



沿革

History

- 2012.06 緑のトラスト運動協力企業として埼玉県知事より感謝状（公社）全国産業廃棄物連合会より「地方優良事業所表彰」を受ける
- 2012.10 廃棄物再生事業者登録事業内容の変更（埼玉県）
- 2013.03 上尾工場の減容施設の廃止、保管施設の追加・廃止保管面積の拡大
- 2013.08 上尾市社会福祉協議会より「感謝状」を授与される
- 2015.01 埼玉県多様な働き方実践企業認定取得（シルバー）
- 2015.06 緑のトラスト運動協力企業として埼玉県知事より感謝状
- 2015.10 さいたま市産業廃棄物収集運搬業の許可が合理化により許可期限で失効
- 2015.11 埼玉県の3S運動推進事業者に登録
- 2016.03 上尾工場にトロンメル導入
- 2016.06 （公社）全国産業廃棄物連合会より「地方功労者表彰」を受ける
- 2016.11 ふじみ野市長より、ふじみ野市・三芳町環境センター建設事業推進への貢献について、感謝状を授与される
- 2017.05 （公社）栃木県産業資源循環協会より感謝状を授与される
- 2018.03 埼玉県の産業廃棄物収集運搬業の許可変更
- 2018.07 緑のトラスト基金への寄附について埼玉県知事より感謝状を授与される
- 2019.07 埼玉県多様な働き方実践企業（ゴールド）に認定される
- 2019.12 埼玉県の産業廃棄物収集運搬業の許可変更
- 2020.06 東京都の産業廃棄物収集運搬業の許可変更
- 2020.07 埼玉県環境SDGs取組宣言企業認定
- 2021.04 緑のトラスト基金への寄附について埼玉県知事より感謝状を授与される
- 2021.07 埼玉県SDGsパートナーへの登録
- 2021.12 埼玉県の産業廃棄物収集運搬業の許可変更
- 2022.03 神奈川県産業廃棄物収集運搬業の許可変更
- 2022.04 栃木県の産業廃棄物収集運搬業の許可変更
- 2022.05 千葉県の産業廃棄物収集運搬業の許可変更
- 2022.07 緑のトラスト基金への寄附について埼玉県知事より感謝状を授与される
- 2023.07 群馬県の産業廃棄物収集運搬業の許可変更
- 2024.08 千葉県の産業廃棄物収集運搬業の許可変更
- 2024.09 埼玉県多様な働き方実践企業（プラチナ）に認定される
- 2024.12



デジタルタコグラフの全車導入

株式会社ウチダでは2013年10月にデジタルタコグラフを全車に搭載しました。

デジタルタコグラフとは車両の運行にかかる速度・時間等を自動的に記録する運行記録装置です。

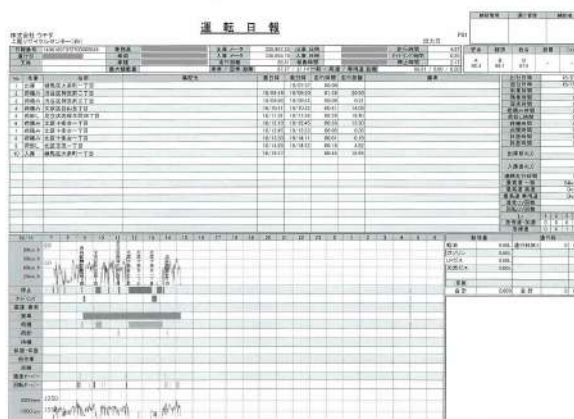
導入したデジタルタコグラフは、運行データをリアルタイム通信で事務所に送信。運行管理、ドライバーの安全運転、労務管理をサポートしています。また、運転日報を確認することで、ドライバー自身の安全運転、エコドライブへの意識向上を図っています。



GPSにより全車両の運行状況を把握



デジタルタコグラフを搭載した車両内部



運転日報

事故記録（一部）



交通事故件数（累計）



事故記録は共有し、事故ゼロを目指しています。

2023年度も事故件数が増加してしまっていることを受け、朝礼時の確認、ドライバーへの安全教育の徹底を実施しております。



ハイライト

Highlights

トロンメルの導入

2016年3月、手選別や振動振るい機では選別できなかった、廃棄物に付着した細かい付着物までも除去が可能となる、自社開発のトロンメルを導入しました。

導入により、管理型混合廃棄物を今まで以上に細かく選別できるようになります。



<特徴>

- ・スクリーン径を変えることで、様々な処理物の選別が可能
- ・六角ドラム方式採用により、目詰まりしにくい
- ・シンプルな構造で、消耗品の交換や保守点検が容易

埼玉県多様な働き方実践企業に認定

埼玉県では、女性の力で埼玉経済を元気にする「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」を進めており、その一環として、「多様な働き方実践企業」を認定し、女性がいきいきと働き続けられる環境をつくり、従業員の仕事と子育て等の両立についての社会的気運の醸成を図っています。

株式会社ウチダも管理職（役員を含む）のうち女性が10%以上在籍していること等の認定基準を満たし、2015年1月から認定を受けています。

2019年12月に認定区分がゴールドに、2024年12月に認定区分がプラチナになりました。



地域功労者表彰・感謝状授与

2016年6月17日 公益社団法人 全国産業廃棄物連合会より地方功労者表彰を受けました。

また、11月1日には、ふじみ野市長より、ふじみ野市・三芳町環境センター建設事業推進への貢献について、感謝状を授与されました。



ハイライト

Highlights



「ウチダ」の木くずリサイクル

建設現場



ウチダ 上尾工場

受入

1



2

展開・検査・粗選別



優良品を選別

3



4

一次破砕機・二次破砕

自社開発 スイングハンマー式破砕機



5

保管



畜産農家等へ



* 畜産農家等では敷料として利用されます

ハイライト

Highlights



「ウチダ」の木くずリサイクル

家畜の糞尿を加え堆肥を生産



畜産農家の言葉

肉牛団地

ウチダの生産する木くずの敷料（おがこ）は、皮膚に刺さらないので牛や豚がとても喜びます。



安心して寝そべることができるのでストレスが少なく、肉質の良い牛が育ちます。異物も全く混入していないので、人気が高く牧場間で取り合いをしているほどです。もっとたくさん供給するよう努力をお願いします。

キャベツ畑に使用

ブランドキャベツ



水田の肥料に使用



農業生産者の言葉

キャベツ生産者

ウチダのおが粉を使った敷料に家畜ふんが混ざると、とてもバランスの良い堆肥ができます。



他の堆肥と比べてキャベツの生育がとてもよく、1.5倍ほどの大きさに育ち、味がとても良いため、ブランドキャベツとして全量百貨店に販売しています。百貨店でも人気の商品だそうです。

環境とのかかわり

Relationship with the environment



廃棄物取り扱い実績(2022年度・2023年度実績)

廃棄物受入量 (m³)

廃棄物の種類	2022年度	2023年度
がれき類	6,810	6,973
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	9,578	11,654
廃プラスチック類	17,769	18,954
金属くず	3,850	4,387
紙くず	8,237	10,895
木くず	15,289	12,344
繊維くず	20	41
ゴムくず	0	0
合計	61,553	65,248



リサイクル量 (t)

廃棄物の種類	2022年度	2023年度
がれき類	6,509	7,092
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	15,049	11,542
廃プラスチック類	7,583	8,112
金属くず	3,483	4,017
紙くず	3,188	4,247
木くず	9,932	8,008
繊維くず	6	12
ゴムくず	0	0
混合残渣	178	253
合計	45,928	43,283

総量 (t)

	2022年度	2023年度
総量	48,918	45,800

最終処分量 (t)

	2022年度	2023年度
最終処分量	2,989	2,517

リサイクル率(2022年度・2023年度実績)

リサイクル率 (%)

廃棄物の種類	用途	2022年度	2023年度
がれき類	再生砕石	71	89
	石膏原料	16	4
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	再生砕石	85	88
	石膏原料	7	2
廃プラスチック類	農家資材	1	1
	熱原料	12	12
	プラスチック原料	82	82
金属くず	製造原料	90	92
紙くず	製紙原料	80	80
	熱原料・固形燃料原料	3	2
	畜産資材	14	15
木くず	畜産資材(敷料)	100	100
繊維くず	畜産資材	80	80
	ダスタークロス原料	20	20
ゴムくず	製造原料	-	-
混合残渣	熱原料(焼却・溶融)	6	9
合 計		94	95

四捨五入で計算して表記していることから合計値が合わない場合があります。

環境とのかかわり

Relationship with the environment

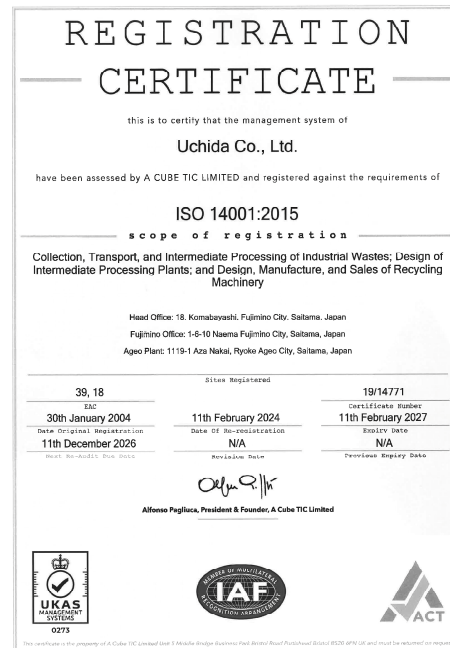
ISO14001の取り組み

株式会社ウチダでは、2004年1月30日、ISO14001認証を取得しました。

認証に基づき、企業活動によって生じる環境への負荷を、常に低減するよう配慮、改善を行っています。

登録概要

社名	株式会社ウチダ
適用規格	ISO 14001 : 2015
登録番号	AJAEU/19/14771
登録年月日	2004年1月30日
再登録年月日	2009年2月11日, 2012年2月11日, 2015年2月11日, 2018年2月22日, 2021年6月2日, 2024年2月11日
有効期限	2027年2月11日
登録範囲	廃棄物の収集運搬・処分、破碎機の製造・販売、 中古自動車の購入・販売
登録事業所	本社、販売本部（ふじみ野営業所）、 Eco. Amusement Park in AGEO



環境理念

株式会社ウチダは産業廃棄物処理業の一員として良質な社会資本の形成を通し、より豊かな生活を実現する為に重要な役割と責任を担っています。当社の行う事業は環境との係わりが深く、その事業活動の中で環境保全に取り組んで行くことは企業としての当然の責務でもあります。このような観点に立って当社は自らの事業活動における環境負荷の低減はもとより、よりよい環境の創造に努め人間にとって真に快適な環境創造の担い手として経済の発展と環境の保全とが持続的に共存する新しい社会の実現を目指します。

基本方針

当社は環境法規制等のもとより、当社が同意した環境に関する外部からの要求事項についてもこれを順守します。

当社は産業廃棄物処理事業活動において、公害防止や汚染予防に常に取り組んでおります。

省資源、省エネルギー、副産物のリサイクル等を含め、汚染回避・低減・管理に積極的に取り組み、環境負荷の低減を図ります。

環境目的・目標の設定・目標達成のための実施計画を策定・実施し、それらの見直しや是正・予防措置を通じ環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

この環境方針は当社内の全社員に周知するほか、社外に開示します。

株式会社ウチダ 代表取締役 会長

内田 一三

2023年度活動実績・2024年度活動目標

項 目	2023年度		達成度	2024年度 目標
	目標	実績		
省エネルギーへの取り組み				
ふじみ野事業所				
事業所へのパッシブソーラーハウスの導入（2008年）	維持	維持	○	維持
水道水浄化用浸透膜装置の導入（2008年）	維持	維持	○	維持
グリーン調達の推進	購入額の35%	購入額の25%	△	購入額の35%
カーボンオフセット付名刺の導入	導入率30%	導入率17.2%	△	導入率30%
上尾工場				
エコドライブの徹底	5.0km/L	4.12km/L	△	5.0km/L
ドライバーズマニュアル（2009年策定）の周知徹底	継続	継続	○	継続
CO ₂ 排出量*1	前年比1%減	693.5t-CO ₂ 8.6%減	◎	前年比1%減
環境対応車両の導入	67台/93台	70台/93台	◎	73台/93台
事業所・工場の照明LED化推進	全照明の63%	0.5%/年 増 施設全体の62.5%	○	全照明の63%
エコドライブの推進 （ドライブレコーダー、デジタルタコメーターの導入推進）	維持	維持	○	維持
資源の有効利用の推進				
リサイクル率の向上 現在のリサイクル率 5年後（基準年2012年実績）2017年度 実績で100%を目標とする	100%	95%	△	100%
工場施設メンテナンスの内製化による長期使用と効率化の推進 （総整備件数中の自社整備件数）	96%	96%	○	96%
収集運搬車両のメンテナンス内製化による長期使用の推進 （点検整備総数分の自社整備件数）	96%	96%	○	96%
生物多様性の確保				
木くずの再資源化の推進 （量の拡大） 敷料⇒堆肥化⇒有機減農薬農法の推進⇒生態系への環境負荷の軽減	前年比3%増 リサイクル率 100%	19.4%減 リサイクル率 100%	× ○	前年比3%増 リサイクル率 100%
水田・芋畑の管理、協力	7 t 収穫	6 t 収穫	△	7 t 収穫

* 1 CO₂排出量は、(株)ウチダの排出量責任範囲である部分のみ（委託先の数値は合算していない）。



環境とのかかわり

Relationship with the environment

製造部門の実績

株式会社ウチダは産業廃棄物の処理だけではなく、処理機械の開発・製造・販売・維持管理も行っています。

製造装置の一例

環境展にて



モンスター



用途：木くず、石膏ボード、紙くず、廃畳、硬質プラスチックの破碎
大型大容量処理破碎機。
投入口を特に広く設計。一次破碎機に最適。
特殊構造の投入スロープ床により細かな木くず、石膏片も吸引。
カップリングを介したダイレクトモータードライブ方式を採用。

スリースター



用途：軟質プラスチック、硬質プラスチック、繊維くず、紙くず、木くずの破碎
軟質、硬質を問わずあらゆるプラスチック製品を剪断破碎。
軟質プラスチック（特にシート系）の処理能力が抜群に向上。
低振動、低騒音。
バリエーション豊かなロストルと固定刃の組み合わせにより、粒度調整が可能。

トロンメル



用途：木くず、紙くず、繊維くず、廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、ゴムくず、がれき類の選別（分級）
スクリーン径を変えることにより、様々な処理物の選別（分級）が可能。
六角ドラム方式を採用の為、目詰まりがしにくい。
シンプルな構造で消耗品の交換や保守点検が容易。

ユニバーサルクラッシャー



用途：木くず、硬質プラスチック、石膏ボード、廃畳の破碎
特殊構造の投入口スロープ床により、細かな木くず、石膏も吸引。
コンパクト。

*いずれも、シンプルな構造の為、頑健。消耗品の交換等保守点検も容易です。

販売実績

納入先	納入機器
北海道旭川市	モンスター・ユースター・振動ふるい機・風力選別機・バーク用破碎機（振動ふるい付）
埼玉県岩槻市	ユースター・磁選機・ベルトコンベアー・ユースター用モーター
沖縄県具志川市	モンスター
愛媛県西条市	モンスター・磁選機・ベルトコンベアー
新潟県新潟市	圧縮梱包機
静岡県浜松市	振動ふるい機

環境とのかかわり

Relationship with the environment

製造装置設置例

「モンスタージュニア」と「ベルトコンベアー」「磁選機」を設置。塩ビ管・継手を破碎して塩ビペレット（チップ）を製造。



「モンスター」と「ユースター」を設置。オガコを製造。



装置のメンテナンス例とパーツ保管



溶接



コンテナメンテナンス



破碎機の刃の再生もりつけ



破碎機の刃



破碎機の部品

（オーバーサイズをリターンさせるために使用）





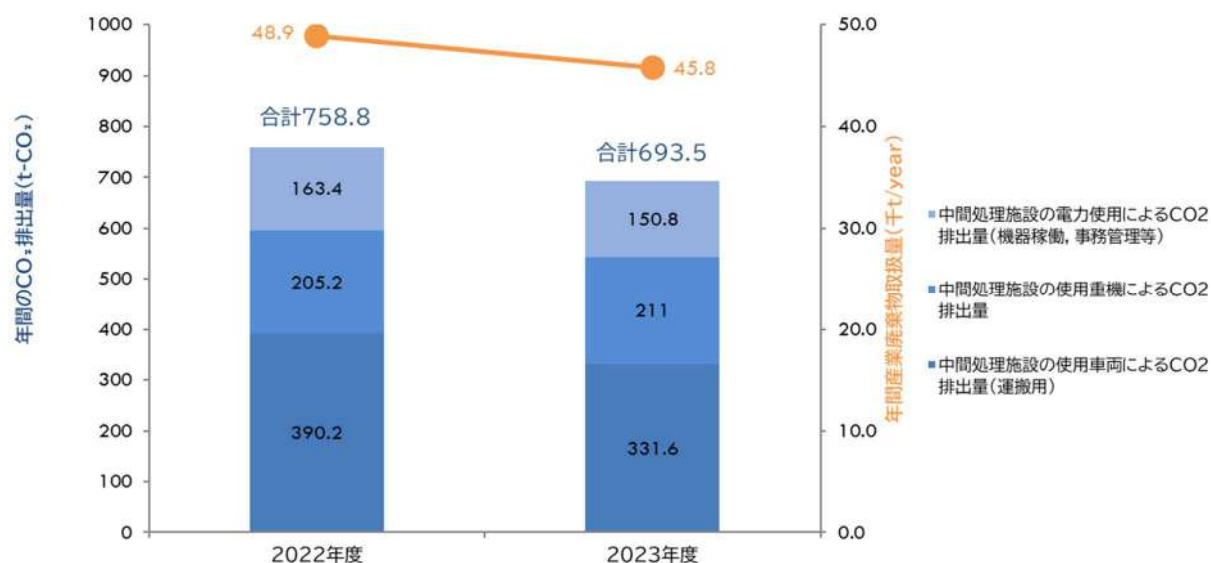
環境とのかかわり

Relationship with the environment

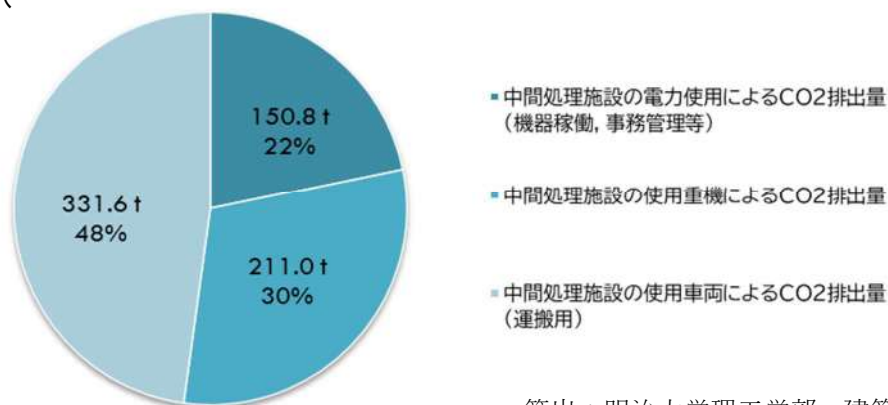
CO₂排出量(2022年度・2023年度)

項目		2022年度	2023年度
産業廃棄物取扱量 (t)		48,917	45,800
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂) (株ウチダの 責任範囲)	中間処理施設の電力使用によるCO ₂ 排出量 (機器稼働, 事務管理等)	163.4	150.8
	中間処理施設の <u>使用重機</u> によるCO ₂ 排出量	205.2	211.0
	中間処理施設の <u>使用車両</u> によるCO ₂ 排出量 (運搬用) 注)	390.2	331.6
	合 計	758.8	693.5
委託先の 責任範囲	参考：(株ウチダからの廃棄物処理（委託）に よるCO ₂ 排出量（焼却・溶融, 埋立）	172.3	178.4
総 合 計		931.1	871.9

注) 産業廃棄物輸送における運搬車両全体のCO₂排出量である。



年間CO₂排出量内訳
2023年度



算出：明治大学理工学部 建築材料研究室

四捨五入で計算して表記していることから合計値が合わない場合があります。

環境とのかかわり

Relationship with the environment

CO₂排出量の明細

算出：明治大学理工学部 建築材料研究室

使用電力によるCO₂排出量

$$\text{CO}_2\text{排出量}[\text{t-CO}_2] = \text{電力消費量}[\text{kWh}] \times \text{使用電力会社排出係数} [\text{t-CO}_2/\text{kWh}]$$

2022年度 排出係数 0.457×10^{-3}
2023年度 排出係数 0.457×10^{-3}

- 排出係数は東京電力エナジーパートナー(株)

▶電力消費量が減少しているのに伴いCO₂排出量も減少。
廃棄物受入量の減少に伴うものと考えられる。



項目	2022年度		2023年度	
	エネルギー消費量 (kWh/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	エネルギー消費量 (kWh/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
上尾	348,718	159.4	320,103	146.3
ふじみ野	8,947	4.0	10,199	4.6
合計	357,665	163.4	330,302	150.8

使用重機によるCO₂排出量

$$\text{CO}_2\text{排出量}[\text{t-CO}_2] = \text{燃料消費量}[\text{kl}] \times \text{使用燃料排出量算定係数}[\text{t-CO}_2/\text{kl}]$$

▶軽油の消費量が増加したことからCO₂排出量も増加。
排出係数が大きくなったことも影響している。



項目	排出量算定係数 (t-CO ₂ /kl)	2022年度		2023年度	
		エネルギー消費量 (kl/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	エネルギー消費量 (kl/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
ガソリン	2.32	0.74	1.7	0.30	0.7
軽油	2.58/2.62	78.88	203.5	80.28	210.3
合計		79.62	205.2	80.58	211.0

運搬車両によるCO₂排出量（燃料法）

$$\text{CO}_2\text{排出量}[\text{t-CO}_2] = \text{燃料消費量}[\text{kl}] \times \text{使用燃料排出量算定係数}[\text{t-CO}_2/\text{kl}]$$

- 中間処理施設への搬入、中間処理施設からの搬出の合計

▶軽油の消費量が減少したことから、CO₂排出量も減少。
廃棄物受入量の減少に比べ燃料消費量の減少は大きい。積載効率は良化していると考えられる。



項目	排出量算定係数 (t-CO ₂ /kl)	2022年度		2023年度	
		エネルギー消費量 (kl/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	エネルギー消費量 (kl/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
軽油	2.58/2.62	151.25	390.2	126.55	331.6
合計		151.25	390.2	126.55	331.6

参考：(株)ウチダからの廃棄物処理（委託）によるCO₂排出量

$$\text{CO}_2\text{排出量}[\text{t-CO}_2] = \text{廃棄物持ち込み量}[\text{t}] \times \text{廃棄物処理原単位}[\text{t-CO}_2/\text{t}]$$

- 中間処理後の焼却・溶融、埋立処分（委託処理）について算出

▶廃棄物受入量は減少したがCO₂排出量はわずかに増加。焼却・溶融処理を委託する廃棄物が増加しているためと考えられる。

▶委託先企業が負担する範囲となる。

項目	廃棄物処理原単位 (t-CO ₂ /t)	2022年度		2023年度	
		廃棄物持込量 (t/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	廃棄物持込量 (t/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
埋立処分（委託処理）	0.038	2,989.2	113.3	2,516.6	95.3
焼却・溶融（委託処理）	0.262 0.283 0.375 0.411 持込み先による	177.6	59.1	253.0	83.0
合計		3,166.8	172.3	2,769.6	178.4

四捨五入で計算して表記していることから合計値が合わない場合があります。

環境とのかかわり

Relationship with the environment

CO₂排出量の経年変化 2013年度～2023年度

算出：明治大学理工学部 建築材料研究室

使用電力によるCO₂排出量



使用重機によるCO₂排出量



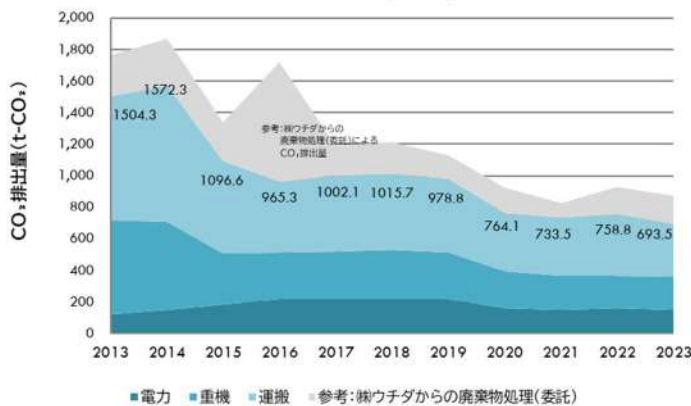
運搬車両によるCO₂排出量
(燃料法)



参考：(株)ウチダからの廃棄物処理（委託）
によるCO₂排出量



CO₂排出量（合計）



年間産業廃棄物受入量あたりのCO₂排出量



Relationship with the environment

優良産廃処理業者認定制度とは、常の許可基準よりも厳しい基準をクリアした優良な産廃処理業者を、都道府県・政令市が審査して認定する制度です。2010年の廃棄物処理法改正に基づいて創設されました。

株式会社ウチダでは、廃棄物処理法改正前の旧制度（優良性評価制度）から情報開示等を進め、2011年5月から順次、埼玉県 産業廃棄物処分業、東京都、埼玉県、群馬県、千葉県、神奈川県 の産業廃棄物収集運搬業で優良認定を受けています。

許可番号 01120030676

産業廃棄物処分業許可証

住 所 埼玉県ふじみ野市駒林18番地
氏 名 株式会社 ウチダ
代表取締役 内田 一二三

優
良

産業物の処理及び清掃に関する法律第14条第6項の許可を受けた者であることを証する。

埼玉県知事

大野 元裕

許可の年月日 令和 3年 6月 2日

許可の有効年月日 令和10年 5月26日

1. 事業の範囲

中間処理

破砕：廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず（がれき類を除く。）及び陶磁器くず、がれき類 以上8種類
破砕・減容：廃プラスチック類（塩化ビニルを除く。）、紙くず（圧縮固化に適したものに限る。）、木くず（圧縮固化に適したものに限る。）、繊維くず（圧縮固化に適したものに限る。） 以上4種類
圧縮梱包：廃プラスチック類、紙くず、繊維くず 以上3種類
圧縮：金属くず 以上1種類

2. 事業の用に供するすべての施設

施設等の所在地

埼玉県上尾市大字領家字中井1116番4、1118番1、1118番2、1118番6、1119番1、1119番2、1119番3、1120番1、1120番2、1120番3、1120番5、1120番7、1120番8、1121番1、1121番2、1146番3、1146番7
以上17筆（面積4,465.0㎡）。

処理施設及び保管施設の概要は2頁から3頁のとおり。

3. 許可の条件

- (1) 中間処理及び処理に伴う保管は、2.に掲げる場所で行うこと。
- (2) 中間処理は、2頁に掲げる処理施設で行うこと。

4. 許可の更新又は変更の状況

許可(届出)年月日	指 令 番 号	変 更 内 容
平成 9年 5月27日	指令廃対第157号	新規許可
平成20年12月17日	指令産廃第1093号	変更許可（破砕・減容の追加及び事業場面積の拡大）
平成23年 5月31日	指令中環第233号	優良確認
平成24年 8月 1日	—	変更届（保管面積の縮小及び保管高さの増大）
令和 3年 6月 2日	指令中環第156号	更新許可（優良認定）

5. 規則第10条の4第7項の規定による許可証の提出の有無

無

[illegible]

環境とのかかわり

Relationship with the environment

各種試験結果報告

試験・分析の内容	採取年月日	試験・分析の結果
混合廃棄物（中間処理破砕物）の放射線濃度試験	2023年9月20日	放射性ヨウ素 I-131 不検出 放射性セシウム Cs-134 不検出 放射性セシウム Cs-137 不検出
混合廃棄物（中間処理破砕物）の熱しゃく減量計量	2022年9月26日 2023年3月1日	4.38% 4.23%
おがこの肥料分析	2007年3月2日	クロム、カドミウム、鉛、ヒ素、水銀、ニッケル いずれも不検出
おがこの食品衛生検査	2023年10月10日 (2023年9月25日製造)	黄色ブドウ球菌 陰性 E.coli 30未満/100g (不検出) サルモネラ 陰性 腸管出血性大腸菌O-157 陰性

混合廃棄物の放射線濃度試験

混合廃棄物（中間処理破砕物）の熱しゃく減量計量

おがこの肥料分析

試験結果報告書

株式会社 ウチダ 様

第 2228-1484-01 号 (1/1)

令和 4 年 10 月 10 日

試験の名称 混合廃棄物(中間処理破砕物)の放射線濃度試験

試験年月日 令和 4 年 10 月 20 日

試験場所 株式会社 ウチダ 様

試験結果 放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

放射線濃度	放射線濃度	単位	試験結果
放射性ヨウ素 I-131	不検出	Bq/g	放射線濃度試験の結果
放射性セシウム Cs-134	不検出	Bq/g	放射線濃度試験の結果
放射性セシウム Cs-137	不検出	Bq/g	放射線濃度試験の結果

以下、備考

備考 1. 測定方法：令和 4 年 10 月 17 日 (金) 40 度

備考 2. 測定場所：株式会社 ウチダ 様 (混合廃棄物(中間処理破砕物)の放射線濃度試験)

備考 3. 測定装置：放射線測定器(放射線測定器) 放射線測定器(放射線測定器) 放射線測定器(放射線測定器)

備考 4. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 5. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 6. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 7. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 8. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 9. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 10. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

おがこの食品衛生検査

試験検査成績書

株式会社 ウチダ 様

第 2228-1484-02 号 (1/1)

令和 4 年 10 月 10 日

試験の名称 混合廃棄物(中間処理破砕物)の放射線濃度試験

試験年月日 令和 4 年 10 月 20 日

試験場所 株式会社 ウチダ 様

試験結果 放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

放射線濃度	放射線濃度	単位	試験結果
放射性ヨウ素 I-131	不検出	Bq/g	放射線濃度試験の結果
放射性セシウム Cs-134	不検出	Bq/g	放射線濃度試験の結果
放射性セシウム Cs-137	不検出	Bq/g	放射線濃度試験の結果

以下、備考

備考 1. 測定方法：令和 4 年 10 月 17 日 (金) 40 度

備考 2. 測定場所：株式会社 ウチダ 様 (混合廃棄物(中間処理破砕物)の放射線濃度試験)

備考 3. 測定装置：放射線測定器(放射線測定器) 放射線測定器(放射線測定器) 放射線測定器(放射線測定器)

備考 4. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 5. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 6. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 7. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 8. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 9. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 10. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

試験結果報告書

株式会社 ウチダ 様

第 2228-1484-03 号 (1/1)

令和 4 年 10 月 10 日

試験の名称 混合廃棄物(中間処理破砕物)の放射線濃度試験

試験年月日 令和 4 年 10 月 20 日

試験場所 株式会社 ウチダ 様

試験結果 放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

放射線濃度	放射線濃度	単位	試験結果
放射性ヨウ素 I-131	不検出	Bq/g	放射線濃度試験の結果
放射性セシウム Cs-134	不検出	Bq/g	放射線濃度試験の結果
放射性セシウム Cs-137	不検出	Bq/g	放射線濃度試験の結果

以下、備考

備考 1. 測定方法：令和 4 年 10 月 17 日 (金) 40 度

備考 2. 測定場所：株式会社 ウチダ 様 (混合廃棄物(中間処理破砕物)の放射線濃度試験)

備考 3. 測定装置：放射線測定器(放射線測定器) 放射線測定器(放射線測定器) 放射線測定器(放射線測定器)

備考 4. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 5. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 6. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 7. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 8. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 9. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 10. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

分析報告書

株式会社 ウチダ 様

第 2228-1484-04 号 (1/1)

令和 4 年 10 月 10 日

試験の名称 混合廃棄物(中間処理破砕物)の放射線濃度試験

試験年月日 令和 4 年 10 月 20 日

試験場所 株式会社 ウチダ 様

試験結果 放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

放射線濃度	放射線濃度	単位	試験結果
放射性ヨウ素 I-131	不検出	Bq/g	放射線濃度試験の結果
放射性セシウム Cs-134	不検出	Bq/g	放射線濃度試験の結果
放射性セシウム Cs-137	不検出	Bq/g	放射線濃度試験の結果

以下、備考

備考 1. 測定方法：令和 4 年 10 月 17 日 (金) 40 度

備考 2. 測定場所：株式会社 ウチダ 様 (混合廃棄物(中間処理破砕物)の放射線濃度試験)

備考 3. 測定装置：放射線測定器(放射線測定器) 放射線測定器(放射線測定器) 放射線測定器(放射線測定器)

備考 4. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 5. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 6. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 7. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 8. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 9. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

備考 10. 測定結果：放射線濃度試験の結果を下記のとおり報告します。

地域・社会とのかかわり

Relationship with the community



地域農業支援

収穫作業



埼玉県産 コシヒカリ

いるま野農業協同組合主催の秋の収穫祭農産物品評会において、特別賞を受賞しました



地域清掃活動

埼玉県「地域清掃気軽に登録制度」に2017年8月登録しました。

【活動頻度】年1回以上 【活動人数】15名

【活動地域】道路・広場／公園
(代々木公園／渋谷／原宿周辺
上尾市領家工業団地内)

2018年6月22日実施 上尾領家工業団地清掃



サクラソウトラスト地の環境保全活動

サクラソウの保護と地域の貴重な自然を人々伝える「サクラソウトラスト地」(大字領家)の地域保全活動に参加しました。

2023年4月1日実施

2023年4月1日実施



お客様とのかかわり

Relationship with customers

工場見学会・お客様向け勉強会

株式会社ウチダでは、お客様である廃棄物の排出事業者の皆様をはじめ、広く一般に、随時処理施設の見学を受け入れています。

排出事業者の皆様には、現場で分別された廃棄物が処理される様子や、自社開発のリサイクル機器の性能、工場での環境配慮の実際をご確認頂いております。

また、ご要望に応じて、現場監督や作業員への現場分別指導や、排出事業者として順守しなければならない法規制等の内容についての勉強会を行っています。



2023年6月16日 排出事業者による見学の様子



2023年7月12日 排出事業者による見学の様子



2023年6月16日 排出事業者による見学の様子



2023年11月6日 排出事業者による見学の様子



2023年11月6日 排出事業者による見学の様子

社内勉強会

株式会社ウチダでは、産業廃棄物処理業をはじめとする各分野で、社員ひとりひとりがプロフェッショナルとして通用する人材に育つよう、資格取得の奨励はもとより、定期的に環境関連法令等の社内勉強会を開催したり、外部講習会へ積極的に参加させるなどして、社員教育、人材育成に力を入れています。



<2023年度社内勉強会実施状況>

日付	内容
2023年8月7日	他社処理施設見学会

その他、下記内容について資料をもとに情報共有いたしました。

- 産業廃棄物処理におけるAI導入事例
- 太陽光パネルリサイクル処理施設事例
- 東京都使用済住宅用太陽光パネルの取り外し・収集運搬マニュアル
- 再生可能エネルギー発電設備の廃棄リサイクルのあり方に関する検討会中間取りまとめ（案）
- デジタル原則を踏まえた廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の適用に係る解釈の明確化等について（通知）
- 資源化等情報適正開示施設審査について
- 災害廃棄物について
- 産業廃棄物処理施設の設置・産業廃棄物処理業の許可等、産業廃棄物排出量、不法投棄量等に関する状況
- 令和4年度国内の廃プラスチック類の処理に関する状況調査結果
- 廃棄物、廃棄物処理業、リサイクル、行政処分等に関する時事ニュース
- 石綿等の切断等作業に係る措置の見直しについて
- 新たな化学物質規制について



<2023年度外部講習会受講状況>

修了日	講習会の名称	実施者	修了者数
2023年7月19日～ 8月2日	令和5年度産業廃棄物処理業者向け講習会	公益財団法人東京都環境公社	7
2023年11月1日	一般廃棄物許可業者研修会	川越市資源循環推進課	1
2023年11月15日	一般廃棄物処理業講習会	さいたま市環境局	1
2024年2月15日	東京23区(特別区)指定一般廃棄物処理業許可更新講習	一般社団法人日本環境衛生センター	1

社員とのつながり

Connection with employees

安全衛生の取り組み

株式会社ウチダでは、日々安全を念頭におきながら企業活動を行っていくため、安全衛生教育や労働安全衛生についての活動を行っています。

防災訓練



場内安全標識



事故防止のため重機と人の動線を区画するパイロンとバーの設置、RL2マスク装着



作業手順書

産業廃棄物処分作業手順書



KY活動実施の様子



安全帯の使用



SDGsへの取り組み

For Sustainable Development Goals

埼玉県SDGsパートナー登録企業です

「埼玉県SDGsパートナー」は、SDGsに自ら取り組むとともに、その実施内容を公表する埼玉県内企業・団体等を県が登録する制度です。

株式会社ウチダも2021年7月31日登録しました。

登録にあたって、環境、社会、経済の3つの分野においてそれぞれSDGsに係る取組及び指標を設定しました。SDGs達成に向け実施する取組は、具体的かつ明確な内容としています。

登録から1年経過ごとに取組の進捗状況（指標）を県に報告します。



廃棄物・3Rの推進

- 廃棄物の適正処理を確実に実施
- 分別の徹底やリサイクルの実施で廃棄物の発生を削減
⇒ 木くず：おが粉として再生され、畜産農家で敷料として利用。
糞尿と混ざり、たい肥となったおが粉は、水田やキャベツ畑で肥料として利用。（食品衛生検査等実施）
⇒ 塩ビ管・継手：塩ビペレット（チップ）として再資源化され、再生塩ビ管原料となる。
- 木くずリサイクルへの取り組みを通じて森林減少に間接的に寄与
- リサイクル機器開発を通して、資源利用効率を向上させ、持続可能性を向上
- 社内でグリーン調達を積極的に推進することで、廃棄物の再生利用に貢献



省エネ・化学物質等・気候変動

- 事務所へパッシブソーラーハウス・太陽光発電装置を導入
- 適正処理を確実に実施することにより、有害化学物質を削減、
ならびに大気・水質及び土壌の汚染を防止
- CO₂削減目標を設定、達成するための計画を立案し継続的に取り組む
⇒ 2013年より継続して実施、CSR報告書で公表



人材育成・環境学習

- 積極的な従業員教育を実施
- 地域住民や取引先企業への工場見学や講習を実施



社会貢献活動

- 上尾ものづくり協同組合主催の環境保全活動参加
- さいたま緑のトラスト運動への寄付を通じ、県内の環境保全管理や緑の保全の大切さの普及に貢献
⇒ 2007年より継続して寄付
- 大学への学術研究奨励寄付を通じて、産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力の向上に寄与



第三者意見

Opinions from third parties

1. 産業廃棄物処理業界を取り巻く環境と成果について

世界情勢は未だ混沌としており、むしろ悪化の一途をたどっているようにも見えますが、国内の経済情勢は比較的堅調に推移し、30年来の不況から脱する気配を感じられるようになりました。また、廃棄物関係の新しい法律も、すでに施行されているもの、これから施行されるものを含め、いくつか成立しています。廃棄物業界にとっても追い風が吹いてきたと言えます。

今回の報告書において特筆すべき点は、リサイクル率が約1%ではあるものの、前年を上回っているところです。85%程度までのリサイクル率であれば、まじめに取り組みさえすれば達成することはそれほど困難ではありませんが、前年の94%のリサイクル率を1%上昇させることは極めて難しく、それを実現したことについては、高く評価できます。

また、発生CO2量のトレースも多年にわたり行われており、それを可視化することで省エネルギー化の取り組みの成果を見比べることができるのも評価すべきポイントであると言えます。廃棄物処理事業者に求められていることへの一つの回答事例であるともいえます。

2. 株式会社ウチダに期待すること

廃棄物処理業を営んでいる企業にとって、ウチダの取り組みは目標の一形態を実現しているものといっても過言ではありません。このことは、ウチダに対する期待値がさらに高まることを意味し、要求されるレベルもより高度化することとなります。

脱炭素化推進の指標として大企業中心に取り組みが広がりとつある、「スコープ1.2.3」の把握において、廃棄物処理業者の排出する温室効果ガスは「スコープ3」に該当し、当該企業ではその情報の入手が課題とされています。ウチダにとってはその情報の提供のハードルは決して高いものではありませんので、スコープ3のデータ提供方法をぜひとも検討してもらえことを期待いたします。

また、ハイライト中の「事故記録」については、開示する企業が少ない中、開示し続けていることは極めて優れた取り組みであると評価いたしますが、今般の事故発生の原因がほとんど「不注意」であることについては注意が必要です。放置をすると重大事故の発生につながる可能性があります。次回の報告書では、環境だけではなく、安全の取り組みの強化についても進展させた記述のあることを期待を持って待つこととします。

早稲田大学 環境総合研究センター
招聘研究員 上川路 宏

ご意見をいただいて

弊社「CSR報告書2024」につきまして、上川路様にご評価とともに改善やさらなる向上に向けた期待およびアドバイスを頂戴したことに、あらためて御礼申し上げます。上川路様には、2013年からレポートに関する第三者意見を執筆いただいておりますが、的確なご意見は、社内において具体的な議論を進めるのに大変有益であり、活用させていただいております。

SDGsやESGの広まりにより環境に対する取り組みへの関心が世界的に高まり、循環型社会に向けた環境配慮が重視され、環境保全に向けた企業の取り組みが評価されるようになりました。ご提言をいただきました、スコープ3のデータ提供方法につきましても検討を進めてまいります。

また、ご指摘いただきました安全への取り組みにつきましても、さらなる強化を図ってまいります。

今後も、ステークホルダーの皆様と共に、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと思っております。

株式会社ウチダ CSR実行委員長 内田 朋美



営業本部
(ふじみ野営業所)

ECO.AMUSEMENT PARK IN
AGEO (上尾工場)

〒356-0052 埼玉県ふじみ野市苗間1-6-10
TEL : 049-293-1128 FAX : 049-293-1126

〒362-0066 埼玉県上尾市領家字中井1119-1
TEL : 048-782-0201 FAX : 048-782-0204

E-mail: e-eco-uchida@bh.wakwak.com